® 日本国等許庁(JP)

00 特許出願公表

@公表 平成4年(1992)7月9日

@公表特許公報(A)

 $\Psi 4 - 503800$

審 査 請 求 未請求 識別記号 庁内整理番号 Sint. Cl. 5 部門(区分) 3(2) 子借赛香精求 有 AE I A 61 K 31/585 ACX (全 7 百) 7329-4C

スピロノラクトン組成物 会発明の名称

向翻訳文提出日 平3(1991)9月30日 **須特 顧 平1-503922** 60分出 節 平1(1989)3月28日

@國際出頭 PCT/US89/01274 **匈国際公開日 平2(1990)10月4日**

アメリカ合衆国 ノース カロライナ州 27514 チャベル ヒル **危発明 者 オルセン ジェイムズ エル** カロライナ フォレスト 117

アメリカ合衆国 ノース カロライナ州 27514 チャベル ヒル **向出 頭 人 カロライナ メデイカル ブロ** カロライナ フオレスト 117 ダクツ インコーポレイテツド

弁理士 中村 稔 外8名 90代理人

AT(広域特許)。BE(広域特許), CH(広域特許), DE(広域特許), FR(広域特許), GB(広域特許). IT **倒指 穿 国** (広域特許), JP, LU(広域特許), NL(広域特許), SE(広域特許)

請求の範囲

1. (a) スピロノラクトン: 及び

(b)(i)ナトリウムカルボキシメチルセルロース;及び

(E) ジメチルポリシロキサンポリマー

の混合物

からなる群から選ばれた水性均一化に有効な量の物質

を含むことを特徴とする、利尿薬またはアルドステロン拮抗薬

としての実用性を有する製蛋組成物。

2. 微粉砕粉末の形態のスピロノラクトンを含む健求の範囲第1 カに記載の調声数.

3. 実質的に中性の pilを有する頭状の範囲第1項に記載の剝皮

4. 技术の範囲第1項に記載の組成物の水性無損額。

5. スピロノラクトンが微粉砕されて、約0.5~約5ミクロンの 範囲の平均粒径を有する健康の範囲第1項に記載の組成物。

5、 スピロノラクトンとナトリウムカルボキシメチルセルロース

の合計重量を基準として、 (a) 約5~約95重量%のスピロノラクトン:及び

(b) 約18~約35車量%のナトリウムメチルセルロース を会むことを特徴とする、利尿薬またはアルドステロン拮抗薬

としての実用性を有する緊張組成物。

7.(a) 約3~約90重量%のスピロノラクトン;及び (b) 約5~約90重量%のメチルセルロース:及び

(c) 約0、3~約30重量%のジメテルポリシロキサンポリマー を含むことを特徴とする、利尿薬またはアルドステロン情族変

よしての実用性を有する製薬組成物。

8. スピロノラクトン、メチルセルロース、及びジメチルポリシ ロキナンボリマーを含み、前記のジメチルボリシロキサンボリ

(式中、口は約200~約350である) を有する確求の範囲第1項に記載の組成物。

S. 前記のジメテルボリシロキサンボリマーが製策上許されるシ リカゲルと混合して存在する鉄球の範囲第7項に記載の遊成物。

10.(a) 約0.1~約1.0重量%のスピロノラクトン:

(b) 約0.1~約2.0重量%のメチルセルロース;

(e) 約0.01~約1.0萬費%のシメチコン;

(a) 約0.05~約0.5重量外の甘味料 (これは組成物のイオ シオオに私と影響しない):及び

(e) 約90~約99重量%の水

を合むことを特徴とする、利尿薬またはアルドステロン拮抗薬 としての実用性を有する製薬組成物。

11. 柳記の甘味料が非弦絶甘味料である情味の範囲第10項に記 数の組成物。

12. 約1~約8の範囲の pHを有する健求の範囲第10項に記載 **の報が数**。

13. 性質が等張性である請求の範囲第18項に記載の目成物。 14. 約0、1~約8.5 重量%の組成物用防腐剤を含む糖求の範囲薬 1 6 項に記載の組成物。

15、改座された水性分散性であり、少量の抱を有し、利尿薬また

けマルドスキョン株核型としての実用性を有する種口投与用の フピロノニクトン経体状態影響を与える、キレート類を含まな い緊張スピロノラクトン組成物であって、

森制の組成物が

(a) スピロノラクトン: 及び

(b) 水性均一化に有効な量の、メチルセルロースとジメチルボ リショキサンポリマーの複合物(ジメテルポリショキサンボ リポリマーは武;

(式中、mは約200~約350である)を有する)

を含み、スピロノラクトンが唯一の悟性成分であり、成分(a) 及び(b) は制御放出多葉単位中で互いに組合わされず、前紀の 成分が提供性被理物を含まないことを特徴とする前記の製薬ス ピロノラクトン経成物。

- 16、微粉砕粉末の形態のスピロノラクトンを含む請求の範囲集 15項に記載の組成物。
- 17. 実質的に中性の pHを有する請求の範囲第15項に記載の額 ph the .
- 18. 情求の範囲第15項に記載の組成物の水性懸濁核。 18. スピロノラクトンが微粉砕されて、約0.5 ~約5ミクロンの
- 範囲の平均計器を有する請求の顧酬第15項に記載の観戒物。 20、改庄された水性分散性であり、少量の泡を有し、利尿薬また
- はアルドステロン拮抗薬としての実用性を育するそ口殻与用の スピロノラクトン液体投棄形態を与える、テレート所を含まな

い、製薬スピロノラクトン猛成物であって、

前記の組成数が

(a) 約3~約90至量%のスピロノラクトン:及び

(b) 約5~約90重量%のメテルセルロース:及び

(c) 約0.3~約50重量%のジメテルポリシロキランポリマー (前紀のグメチルポリシロキサンポリマーは式:

(式中、のは約200~約350である) を有する) を含み、スピロノラクトンが唯一の指性成分であり、成分(a) 及び(b) は制御放出多葉単位中で互いに組合わされず、前記の 成分が侵食性被獲物を含まないことを特徴とする病記の製薬ス ピロノラクトン詞放列。

- 21、前記のジメテルポリシロキサンポリマーが製菓上許されるシ リカゲルと混合して存在する錯求の範囲第28項に記数の短戒
- 22。改良された水性分散性であり、少量の泡を有し、キレート祭 を含まず、利尿薬またはアルドステロン拮抗剤としての実用性 を有する製薬スピロノラクトン液体投薬形態の製剤組成物であ -T.
 - (a) 約0.[~約1.0重量%のスピロノラクトン: (b) 約0.1~約2.0 監査%のメチルセルロース;
- (e) 約0.01~約1.0度量料のシメチコン;
- (4) 約0,05~約0,5重量%の甘味料(これは組成物のイオン 強度に殆ど影響しない):

(e) ¥090~約99重量56の水

を含み、スピロノラクトンが唯一の牺牲点分であることを特徴 とする前記の製御袋成物。

- 23、 何記の甘味料が非正維甘味料である誰求の範囲第22項に記 競の組成物。
- 24、約1~約8の範囲の『Hを有する情况の範囲第22項に記載
- σ tā xb Se . 25、性質が等後性である請求の範囲第22項に記載の組成物。
- 26、約0.1~約0.5重量%の前配の経成物用の物質剂を含む請求 の新研集22項に記載の観点物。
- 27、利尿有効量の練求の範囲第1項に記載の結成物を哺乳類に投 与することを特徴とする哺乳類の利尿治療法。
- 28、前記の哺乳類がヒトである精楽の範囲第27項に記載の方法。 29、前記の経成物が経口投与される請求の範囲第21項に記載の
- 30、アルドステロン拮抗有効量の請求の疑問第1項に記載の過度 物を哺乳類に投与することを特徴とするアルドステロン週剰症
- 31、前記の哺乳類がヒトである講求の範囲第30項に記載の方法。 32、 前記の組成物が経口技与される請求の範囲第30項に記憶の
- 33. 利謀有効量の請求の範囲第15項に記載の認成物の水性分数 液を哺乳類に投与することを特徴とする哺乳類の利尿治療法。
- 34、前記の哺乳類がヒトである請求の範囲第33項に記載の方法。 35 似紀の女性分散液が移口を与される情味の範囲第33項に記
- 36. アルドステロン拮抗有効量の請求の範囲第15項に記載の組

西軸の女性分野者を補具機に投与することを特徴とするアルド ステロン過剰度の治療法。

37、 並記の哺乳類がヒトである誰求の範囲第36項に記載の方法。 38. 前記の水性分散機が経口投与される緯水の範囲第36項に記 取の方法。

拼 扫 曹

スピロノラクトン出版数

発見の背景 発明の分野

本発明は一般に利尿薬及びアルドステロン括抗薬としての実用 性を有する型変態或物に関するものであり、詳細には、水性均一 化できるという特性があるこのような型のスピロノラクトン組成

物に関する。 基来技術の説明

スピロノラクトンは重要なアルドステロン拮抗特性を有するステロイド系ラクトン化合物であり、これは利尿薬として広く使用されていた。

この化合物の構造及び調整は、A.A パチェット (Patchett) らの米団体作事3,257,390 号に前示されている。

スピロノラクトンは非常に有効なアルドステロン情報間であるか、それは実際に大に不同性であるという間間の欠点を有する。 メビロノラクトが毎日改革列の個世界のでは最初が出版し、例えば、近極的まとして他用するとかれば、の代金物を促剤まとはカブモルやでは強ながある。例えば、近極的まとして他用するととが利息が必要される。非認には、透射的スピロノラクトン的ませば超減研究と対した。この実際に、一般性もの意気の生物学が利用を確認していた。見見ませばそんのアルドステロン透射症(Inpersident (Free in 1881) の対止に続いて、このような面体大型のインクトン以張彩度は対象に不可である。アルドステロン透射症(Inpersident (Free in 1881) の対止に続いて、このような面体大型のインタトン以張彩度は対象に不可である。アルドステロン透射症にかかりあく、またもれを患うこのような現状とは多人の形に日本に適等の支持性変列的を促進することは、自動を不要が出来る。

生率の発施を生じないで傷性成分の非常に均一な懸衡機を生成するスピロノラクトン組成物の提供により大市に原培し得るという 並くべき予測されない発見に添く。

国教技事態に対ける制度を移がたことが明られてあるメアセー グラリンや自身の特徴は、簡単のを米末氏はでも飲めれた 関係をに分散をすることが取るられる場合に、本または水性事等 やでかなり先世するというすの目標である。レストを発和に生 本内のスピのリラリンの主な事の制度につがく有者である。 スセロノラクトンのこのような実施は、本際に乗って、スピ し、ラクトンをこかりながありなどの様である。 で、またはノナルシャルコース及びジメテルボリンロキャンボリマ ーの終えと成らして他用することにより条門のに、本男別のこ もの気の変更数目のまった。大学は14年では多様でで表表に与 もの気の変更数目のまった。大学別に

化されるという驚くべき特徴を示す。

スピロノクタトン用の水性時一化に可効な影響所としてのナト リウムかルキャンノテルをルロースの世界に、00.4 介格質が 大型的に見感形。近距距野馬、また山地部所として「代きご場合・ 市地形としての役割で)製造工業で使用されるという事実で認み て海末に変くべるである。当業者は均用的には増加所を発向性か により悪化をはなことが対象とれるからである。このようグラボ おと対して、スピロックタトンと過せたけ、りなりかポ センノテルセルロースは、地格及びが経路中のスピロノラタト ン園性度から極端を与えるのに増加な速で使用される場合に他 の根据や金やに関することがかか。

また、スピロノラクトンがメチルセルロースとジメチルボリショニサッポリマーの女性的一名に有効な混合物と気に使用される

それ故、本発物の目的は、消化の間に容易に末性均一化し得る 臨結後進起者的が起、または水管スピロノラタトン型易消息 動の改良されたスピロノラタトン投資期間を提供することである。 未受物の対の自的は、容易に関係化され、世口投与により容易 に投与されるような型のスピロンラタトン製剤を経済することで ある。本定例のもの他のご可及び利点は、以下の保示及び非常の 副間から変化の気に関係している。

発明の契約

本発明は、一般には、スピロノラクトンと、(i) ナトリウムカルギャシメラルセルロース、及び(i) ナチルモルロースとジメチルルボリンロキャンボリーの場合物からなる部から選ばれた水佐 助一化に対効な量の物質を含む、利採業またはアルドステロン活 核要として有なな組成的に関する。

本免別の別の特徴は、約6.1 一約1.0 変量外のスピロノラクト ソ、約6.1 一約2.2 変量のカナルをルロース、約6.5 一) 1 変量分のフォコン、約6.5 でから6.3 変単外の対象科 に れば延次数のイエン型性に影響しない)、及び約36.0 一約 9.5、変量外の水を含む、利致変またはアルドステロン核気型と での皮質性を写った場合のである。

本発明の更に別の特徴は、利尿有効量の上記の返皮物を哺乳類 に投与することを含む、哺乳類の利尿治療法に関する。

型に別の特徴に於いて、本発明はアルドステロン拮抗有効量の 上記の組成物を哺乳類に役場することを含むアルドステロン場剤 途の治療性に関する。

発明及びその好ましい実施整構の群都な説明

本発明は、スピロノラクトンの水に実際に不溶性の性質が、水 性均一化できる、脚ち水またはその他の水性鉱体の存在下で高発

図の実施設施は、驚くべき予測されない特徴を示す。上述のよう
に、水主にはその他の水性筋を中のスピロックタトンでもしのは、
水面となるではその他の水性筋を中のスピロックタトンはもまでは
水面に水に不同性であり、点く分散しない。メラルモルロースに
いるような処面的の能能性、ナトリウムカルモルシッチルモルロースに
のような処面的の能能性、ナトリウムカルモルシッチルモルロ
ースに防じて上記したのと同様な、政策がかなりの重要は上所
を示して自己とから異常によりは実体で予想される。この予証に
を示してもことが当業でによりは実体で予想される。この予証のよ
地のスピーノラットへのメテルエルコの認かが概念の
地の発生もたらすという事実により実践される。しかしながら、 強くことに、メテルセルロースシジメテルモリンロ・マンペリア
は(ことに、メテルセルロースシジメールエリンローマンペリア
は(ことに、メテルセルロースシジメールエリンローマンペリア
は(20点)とあるは機能を比、気化がおいてラタトンであまる
れる場合、場合れる場合をは、鬼物学動を他と示さないて等系に
れる物かった。

本利用電 N 利 P A A A A E O P A P D V D A A C D W P − (7 セ テルチオ) − 1 7 − は P ロ + 2 − 3 − 3 + 3 + 7 − ブレグ P ← 6 T フ − 1 1 − 2 ル M V M − (− 9 P) P ≪ S ↑ , X に D / 5 P ト V は、その最密 D M は A E D M S を B T で A E A C M D A E C M D A

水性均一化できる感染地強端数を得るためにスピロノラタト ンと場合せるのに有益であるナトリウムかポポテンノチルセルロ 一スは、退成物中のスピロノラタトンに関して延振及び消泄化な 動である量で、その異数的なダラニュール固定の形態で使用され ステンサが場である。 こうして、ナトリウムカルボキシメチルセルロースとスピロノ ラクトンは、好適に関係場合物として用意されてもよく、この道 合物は、例えば、延興者により、分配の時点で水に分散でき、 毎日時故に適した大物なビロノラクトン経済物を生じる。

スピロノタリンとナトリウムをかぶキシノチルセパロースの 一般的な製剤は、スピロノタウトンとナトリウムカルボキシノチ ルセパロースのを付置を名誉をとで明ら、でする業業がのスピロ ノタウトン、及び助りの一約3と重量がのナトロウムをがそシ ナルケルローのこのでは、大いで、このうで国際後を制に、成 毎日成初の企業業を基別として約0.1-1、0重量がのスピロノタ リンケを企び直接スピロノタケトン組成物を呼るのに近した量で 水との動し終る。

チャルセルロースがポリンロキシメリマー及びスピロノラク トンは由せて世界される本発物の到の実施目は戻れて、ノテ ルルルロース物質は、例えば、ミングン州、ミッドランドルる ダッ・ケミル地 (Geo Chesical Co.) ホら間高さ「メトモル に同100212)として市転されるような、電状労働の製工上級やなプ レードの協権性メチルセルロースであることが発達であり得る。 メチルセルロース及びスピロノラクトンと出合せるのに質益な メチルセルロース及びスピロノラクトンと出合せるのに質益な メチルセルロースをは、

(式中、πは約200〜約350である) を有することが好変であり得る。このようなポリマーは、このようなが以びメチルポリシロキテンと製筆項に検討されたシリカゲ

タタトン、及びナトリウムをかポチレノチルセルロースを含む値 機能、まなは、13 必要とよう機能を中で、スピロック・ ノテルセルロース、及びジノテルボリシロキャンボリマーを含む 延減をは、実質的に中性のまれ、一般に対1・時1の単間の。11 のより、実施だった。近日後半金の生产の実施では、2000年の月間では のイオン様配と一般に挙しいイオン機能を打てよこが信息され 本分をちる。このような等等物性、3次型がより、4次型 への週間に対いて本発明の組織をの退性に関しておきに実現な特 位できる。役となれば、5実所をの造成を成別しておきに実体なか のである。役となれば、5実所をの造成と成別的に元だにかなう の下来のきる話でよからである。

スピロノタクトン組成物の上記の学売性を指するよめには、 上記の任意の高速度が超速数等のイオン強度を行き交配をさせない。 なが必定である。例えば、任意の世球料処理所に関して、形足等 写情料を使用することが重要である。何となれば、逻辑は組成物 の容異性を提出すからである。それ後、ナトリフルケッカリン、 及び商品をユニーラスイート「fargessmeet!") の契令人工世帯が分をしい。何とな れば、このような人工世帯料は組成物の写異性に対と影響してい ルムニュル

水性シロップ投張形態の、上記の髪の任意の抵加期を含む好透 なスピロノラクトン組成物の例は、下記の製剤である。

典 分	_A_X_
スピロノラクトン	5.0 g
ソルビン酸(勃晃剤)	0.5 g
ソルビン敵カリウム(防傷剤)	2. 0 g
シメチョン	0.87 g
ナトリウムサッカリン	1.35 g

ルの成合物として原本されることが呼びであり得る。特に好すし にのノナルベジロキサンジリカゲル減合をは、10 ボンド・ よッドランドにあるチウ・コーニング (Westers Individual) A 「として が起されるシイナンである。4 Code Contain Individual) A 「として が起されるシイナンである。4 Code On Tat マンチランン 知賀は、 関連高麗者から可能されるシノナコンの3 5 メスィルションである。 オーチカル・アンチフィームルドエマルション (10 メラコン エアルション以上の10 である。

スピロノタクトン、メドルセルロース、及びリッドルボリンロ キャンボリットをひた型の出版を回路を対え合物とは、 されることが分別であり、これは水に物かされる時に地を特とが 成し、一般に、このような質の出版がは、別は、一からさ、のような のよなサンス (アリタクトン、)が5.0 〜 1/5 ・ 1/

経口投与用製剤としての水またはその他の水性気体中の水発現のスピコノラクトン組成者の上記の実施設施は、特別の過減に必要であり、または所護され、その客間される目的のためのスピロノタトン活性成分の動力を損なわない機能形を含むことが浸透であり得る。

このような面別所の別は、製剤中のカビ及び確認の発生を突射 するのに有效な抗性物質の如き物薬剤、排水の蛇の元程期、結疾 減臭類、帯色能加所、及び甘油剤、等を含む。これに同し、「各 本的な「組織物、即5(a)」と愛により水性質体中に、スピコノ

メチルセルロース 12.0 g 41マグナスイートロググリセリン 14.0 m a パナナ類技術展開 1.0 m a

オアテ海域場及南 1.0 m c 1.0 m c 2.0 c 2.0

本発売の集役配配収点とロッチットン組集的の業質を料点 は、その構成物が、現在まで利用できていた低階を投資制能のよど ロッラタトン組織的よりを示い確定で、しから大きな程度で吸 できることである。この日由は、脳棒製業所を組織的が分散を入 の全金の生性内のエレッタタトンの服務を必要とする外、一方、 本見のスピロッフタトンの保持変形成は第二条性是易信々に同 まされており、それによりそれらの生物学的特別を表大にし、上 区の吸収の対象とれた健康及び環境をものするというでとである。

立うして、本発明の計事といば感覚は、スピロノラクトンでは、 薬の含素の全体の対象形態を促化、スピロノラクトンは特別地 出の多素身心中にはかせられておらず、また切支性制度物を行す るとをによるように、現場の世中学的利用から移列に保護されて がない。また、特別に対象技能を対けて、スピロノラクトンが 唯一の搭載分である。更に、併ましいスピロノラクトン製成物 はヤレーン用を含なない。

本発明の特徴及び利点は、以下の非規定的な実施例に関して更 に充分に示される。実施例中、全ての部及び対は、特にことわら ない残り、産量差率である。

週上
関体の微粉やされた結晶形態のスピロノラクトン50 muを、内 性 2 cm 及び等さ5 cmを有する l 0 mac のびん中の水 l 0 mc にご爺 加し、図とりして水性媒体中のスピロノラクトンの分散を行なっ た。後しく類とうした後、スピロノラタトンは不見分に分散した ままであり、水正上に0.3~0.5 cm (1/8~1/4インチ)の 解席のかなりの格を生じた。

24 2

スピロノラクトン50srを、例1に使用した型のびんのの水 10msに低加し、残いでメタルをかロース 120ssを包加した。 この水性組成物を楽しく類とうし、例に対してスピロノラクト ンの改集された分散を急じたが、多重の能の発生を作なっていた。 米面上の窓の本体は賞き約1.3cm(1/2イソチ)であった。

所2の水性分散核にシメチコン6.7 mgを設加した。微しく版と うした後、返成物はその性質が半透明であり、発泡を示さないで ないな底性性ない。

64 6

スピロノラクトン50mmを、新1に使用した位のびんゆの水 13mm に位加し、域れてナトラウムかルボキシノチルセトルコー ス120mmを活動した、毎られた高金物を使しく至くうした。 を今後、混合物に向一に分散されており、良分な私更勢比及び型 価格性、変更的に今性の・pH(約1.0)を有し、援助上に添かな かった。

<u>例5</u>
下記の表) に示される程痕を有する本発明のスピロノラクトン 程度物をつくった。

1

英分			
スピロノラクトン	5.0 g		
リルドン粉	0.5 g		

夫々の試験に扱いて、暗解整体中の試料を装置に必加し、次い で装置を注土した。

様々の間隔で、夫々の試料を含む相当型の認識組を取り出し、 は溶し、複雑1」のはあり10 prのスピロノタクトンを含み、 42 0 の今年ピーン現場を有する程準数でお近したウァックー ズ (Naters) 返相日PLC (環境集かロマンドラウス・) 1. 1 カウム (マウナ) 一元・ファン 7所、2 ルフェードにあるとリポア・コー ボーション (#illifayer Exprentialのフェーラーボ・タロ マドグラフィー部門) に従入した。試刊1 - 40元・の実別の表 買はネッ1 m ミノタであった。このようにして、大小の試刊 1. 4 4 のスピロノタラトンを分類し、変素化した。協和そ、溶解 1 m 4 5 たりのスピロノタクトンのマイクログラム能で表まに示

接出施!m 4 当りのスピロノラクトンのマイタログラム数 水炭経過時間(分)

	1	3		16	15	29_
医科1	.48	.88	2.5	7.1	8.8	9.5
拨料 2	.83	1.1	4.7	8.9		••
試料 3	.44	1.5	3.1	5.2		••
EC 89 4	2.8	5.3	6.9	8.9		

及2中のデータにより示されるように、試料(の水性整膜検は、 それにより降られる一種の第一な極端板のため、試料 1 ~ 3の 元 版の間単位別に就べて万本に高い初別を設備を今末 たっこ 6のデータは、未発明のスピロノラク)ン以東形態が試験された 市転の個体程度的はよりもかなり集く広電医に生き学的に利用で

特表平4-503800 (5)

支介な量

シメチコン	0. 6 7 g
ナトリウムサッカリン	1.35 g
メチルセルロース	12.0 g
41マグナスイート [®] /グリセリン	14.0 m #
バナナ矯保矯臭薬	1.0 m #
12 H ×	1.01にするのに

得られた組成物はその性質が均一であり、良好な思趣特性及び 糖度物性を有し、その中に他が存在しなかった。この組成物は中

性 pH (7 ~ 8) を有し、等値性であった。 この製剤を、変量に対ける製剤の対限状料に対して、3 7 での 高度で実定性に傾して試験した、権力機の発生(7 月間隔で失 + の試制から取り出し、別しら発性により発化してそれらの交 定性を評価した。3 分階後に、再基試料及び対策以附に対に充分 に完全であるとも対かった。

64 6

型上 原出投資資本、二つの割・の支援で作用の関係スピロノラタ トン収割(アルタタトン (Ideatemeを)、G. ロ、テール・アン ド・カンバニ (Isear) a Lossany)(採用1 及以採用2)、一 即の採用はスピロノラタトン設別(ドラデビ・・インコーボレーシ まび終しる場所により減失したスピロノラタトンの水性差別減 に従出る)に関したアピロ・ラップの単位に対しては に従出ると同じたアピロース

その研究を、37℃の温度で移解医体として特製水中の0.0 (NのHC Lのわずかに設性の水溶液を用いて、USP溶解設置3 (p. 959、USPXX (1980))を使用して行なった。

まることを表す。

BN 7

本見勿の呼至しい支集指揮のスピロノラクトン得遅を、その他の型のスピロノラクトン発揮を見むた、こうして、メチルルル ロース左にはナトリウムカルボキシメチルセルロースを含う、 EDTAを含う、もしくはEDTAを含まない8種類のスピロノ ラクトン増減を以下のよっに質難した。

<u>概金物!</u>:本勤の許ましい環境及び成分:金等量100mfに する水中、スピロノラクトン、0.5 x;メチルセルロース、1.2 x:ステアリン位ナトリウム、0.028x;及びシメチコン、 0.2 xにより調整した。

<u>限会物目</u>; EDTA 0. Bl g を後期した以外は混合物(と同じ

及会型:金容量100mをCTる水中、スピロノラタトン、
0.5 m:カルシカニナトラウムEDTA、0.00 (を:ナトラウムEDTA、0.00 (を:ナトラウムが水中シノチルセロース、0.5 m:170 Mのソルビトール溶理、5 m:170 Mのソルビトール溶理、5 m:170 Mのソルビトール溶理、5 m:170 Mのリカーリウム、0.02 5 m:及びセオーコン、0.01 5 m.

混合物度:EDTAを設施しなかった以外は、混合物目と同じである。

<u>現金数</u>V:金容量100m±にする水中、スピロノラクトン、 0.5 a:カルシウムニナトリウムEOTA、0.01s:ナトリウ ムカルボキシノチルセルロース、1.0 a:70 Mのソルビトール 解表、10m a:ラウリル磁放ナトリウム、0.05c:及びシメ テコン、0.03 c.

混合物質: BDTAを添加しなかった以外は、混合物∀と同じ である。

特表平4-503800(6)

<u>組合動場</u>: 会容費100m & 中、スピロノラクトン、0.5 g; カルシウムニナトリウム B D T A、0.0 l g; ナトリウム カルボ キシノテルセルロース、2.0 g; 70 Nのフルビトール溶粧、 #1 5 m g; ラカリル医胎ナトリウム、0.0 T 5 g; 及びシノテコ

ン、0.045 s。 <u>選会物理</u>: BDTAを添加しなかった以外は、混合物VIと同じ

である。 夫+の熔板をぴんに入れ、凝とうした。矢+の熔板の上部の池 層の誤さを、接時例定した。

8 種類の溶液を用いた実験の結果を裏3に示す。

基 3 紀の寝さ (**)

時間(分) 総合物 0.5 1 2 5 10 30 60 50 60 90 150

- и ..
- * びんの内側の裏面にある気泡であり、裏面の中央にある泡 ではない。
- ・・・その経度物は増結しすぎて裂とうできず、懸器液中に認め られる量の液分を得ることができなかった。
- 混合物!~Wを約2時間整理した後、それらを観察した。混合

降る器体粉末組成物の形態で容易に繋折化でき、または水性スピ ロノラクトン懸態性の影能で凝加し得る。この製剤は現象機能を 級に従与され、利果運またはアルドステロン拮抗変としての実用 他を与さえ

本急別の分支しい実施監律が示され、詳細に記載されたが、そ の他の変化、改良、及び実施経常が習近であることが哲解され、 それ故、全てのこのような変化、改良、及び実施結構は本発明の 精神为び即因内にあると見なされるべきである。 報1 (本報の終末しい場合物) 及びま (本報の後金等・8 D T A) は不適用であり、3 ルルクのようであり、近人を選まさした場合に、ご(カデルの大な数字がび人で数字できた。天中、8 D T A を含まった場合物を及びませま到するり、 金分・長た見口T A を含まない場合物を及びませま到するり、 金合物 1 及びまりのは、3 を分割ではなく、手数のは そ 市してもり、 処理集合をがソルの延修に次せしてかた、 場合物 ・1 ルスクトを定しませて場合であったが、 約1 ~ 3 冊多り地位 の遺生物をぴんの定能になせしてかた、 混合物の対しては、起合物 1 及び 3 とほぼ用と他にて活然であったが、 約1 ~ 3 冊多り地位 の遺生物をぴんの定能になせしてかた、 混合物の対しい生態発症 様の成合的 1 反び は、その他の報合物よりも思慮し及く、しか も実料型を終めませる。

発明を実施する最良の方法

スピロノラクトン組成物は、スピロノラクトンと、水性、均一 花に有効な量のメチルセルロース及びシメテルポリシロキャンポ リマーの混合物を含むことが好ましい。前紀のジメテルポリシロ キサンポリマーは、広:

(武中、nは約200~約350である)を有することが好まし い。スピロノラクトンは唯一の委託成分であることが好ましく。 成分は彼太性被理判を含まず、新聞放出単位で試合わされていな い。

工業上の適用性

本発明のスピロノラクトン組成物は、消化の前に水性均一化し

補正者の難訳文提出書 (特許法第184条の7第1項)

3. 9 30

平成 年 月

等許序長官 保 沢 豆 殿

PCT/US88/01274

.....

2.発明の名称 スピロノラクトン組成物

3.特許出願人

1. 特許出顧の表示

名 称 カロライナ メディカル プロダクツ

4代理人

住 所 東京和千代田区丸の内 3 丁目 3 香 | 号 電話 (3211)874] 代志

氏名 (5995) 弁理士 中 村

1390年9月8日

5. 補正書の提出年月日 6. 添付書類の目録 (1) 補正書の解釈文



特表平4-503800(7)

の 辞 開

1. 改良された水性分配性であり、少重の他を有し、利果薬さた はブルドステロン搭託薬としての実用性を有する毎日費与用の スピロノラクトン液ル投薬が越まれる。ホレント期を含まな いが重えピロノラクトン塩級物であって、

察見の組成物が

(a) スピロノラクトン:及び

(b) 水性均一化に有効な量の、メチルセルロースとジメチルボリシロキサンボリマーの混合物(ジメチルボリシロキサンボリボリマーは式。

(武中、りは約200~約350である)を有する)

を含み、スピロノラクトン水塊一の褐性成分であり、成分(s) 及び(b) は制剤放出多乗単位中で互いに総合わされず、常配の 成分が侵ま性被援助を含まないことを特徴とする側記の数距ス ピロノラクトン組成物。

- 気管幹粉束の形態のスピロノラクトンを含む情求の範囲第1 項に記載の額成物。
- 実質的に中性のpHを有する器求の範囲第1項に記載の認成
- 4. 請求の範囲第1項に記載の過波物の水性整備核。
- スピロノラクトンが数額砕されて、約0.5~約5ミクロンの 範囲の平均粒径を有する請求の範囲第1項に記載の過去物。
- 6. 改良された水性分散性であり、少量の液を有し、利尿更また

はアルドステロン技能型としての実用性を有する後口役与周の スピロノラクトン推修控要形態を与える、キレート期を含まな い数据スピロノラクトン複談物であって、

(a) 約3~約90度量%のスピロノラクトン:及び

前記の組成物が

(b) 約5~約90度量外のメチルセルロース:及び

(c) 約0.3~約30重量%のジメチルボリシロキサンボリマー (前記のジメチルボリシロキサンボリマーは式:

(式中、 n は約200〜約350である) を有する) を含め、スピロノラクトンが唯一の磁性成分であり、成分(4) 及び(5) は阿智設治多薬は中で至いに場合わされず、府民の 成分が使えば治理物を含まないことを特殊とする府紀の製菓ス ピロノラクトン組織物。

 前記のヴメチルボリシロキシンボリマーが軽重上許されるシ リカゲルと混合して存在する結束の軽距第6項に記載の組成物。
 改良された水性分散性であり、少量の抱を有し、キレート間

を含まず、利尿薬またはアルドステロン核抗薬としての実用性 を有する製薬スピロノラクトン液体投棄形態の製剤超液物であ って、

(a) 約0.1~約1.0重量%のスピロノラクトン:

(b) 約0.1~約2.0重量%のメチルセルロース:

(c) 190.01~約1.0重量%のシメチコン:

(4) 約0.05~約0.5重量%の甘味料 (これは掲成物のイオン

強度に殆ど影響しない);

(*) 約90~約99塩量減の水

を含み、スピロノラクトンが唯一の活性成分であることを特徴 とする前紀の数策竭威勢。

前記の甘味料が非医練甘味料である構束の範囲第8項に記載の組成物。

 約7~約8の範囲の pHを有する建実の範囲第8項に記載の 組成物。

11、性質が修養性である間求の範囲第8項に記載の組成物。

12. 約0.1~約0.5重量外の前配の返放物用の助寫所を含む請求 の範囲第8項に記載の返放物。

13. 利尿有效量の調求の範囲第1項に記載の認成物の水性分散液 を味乳類に投与することを特徴とする哺乳類の利尿治療法。

14. 前記の哺乳類がヒトである緯球の範囲第13項に記載の方法 55. 前記の水性分散液が経口按与される緯求の範囲第13項に記

後の方法。 16、アルドステロン核抗有効量の機求の範囲第1項に記載の組成

16. アルドステロン核族有効量の技术の範囲第1項に記載の場故 物の水性分散液を哺乳板に投与することを特徴とするアルドス テロン過剰底の治療法。

前記の時見類がヒトである辞求の範囲第16項に記載の方法。
 前記の水性分散症が経口投与される律求の範囲第16項に記

8. 料配の水性分配をか扱口を与されるポルンをはおり、 数の方法。

图 原 餌 友 報 告

Canadad,	Consent Sprimers, Flant recommen white appropriate, where scenare springers a	Selection to Dear No. "
7	C.S., A, 4,108,582 (AMSCHLER)22 AGGUST 1918 (ucc columns 10 + 11).	1-16
Y	U.S., A. 4,125,564 (MEICHERT EZ AL) 12 DECEMBER 1578 (see column 6 s 7).	1-35
¥	U.S., A,4,155,084 (ONG) 25 MANCH 1980, (Act claims)	1-35
y	O.S., A, 4,217,359 HERAPOHOD 12 ANGUST (see column 7)	1-38
¥	U.S., A. 4,502,589 [KAMATA ET AL.] 05 HARCE 1935 (see column 11).	1-36
	of the species of the decisions: * The special control of the specia	
	Comment of the All Street, Advantage of the Ast opening and the As	A Line William

* Secret of Secret Secr

The Date of the Control of the Contr

10A/DE PETER MIAUSEY